

銀行員から弁護士へ

神原 太一



PROFILE

かんばら たいち
四国ロースクール
2007年3月卒業
第61期司法修習生

質

・量ともに豊かな法曹の養成と、四国における弁護士過疎・偏在問題の解消を目的に誕生した四国ロースクール。その第一期生の中から、新司法試験の合格者が3名誕生しました。その中の一人が神原太一さん。勤めていた銀行を退職して司法試験にチャレンジするという、思い切った経緯を持つている人物です。司法試験を受けることにしたきっかけを「自分の存在意義を感じられる仕事をしたかったから」と神原さんは言います。決して銀行の仕事が嫌になっただけではないそうですが「銀行では自分の代わりが沢山いる」と思いついて、そのうちに「本当に自分を必要としてくれる人のために仕事をした」という思いが強くなって退職を決意したそうです。「はじめから司法試験を受けたい」という強い気持ちがあったわけではなく、友人に弁護士がいたこともあり、会社を辞めてから司法試験を受ける気持ちになりました」と神原さん。商学部出身ですが、通信教育で約一年半勉強した後、当時誕生したばかりだった四国ロースクールに入学しました。

必ず応えてくれました。特に実務家教員の先生方からは、法律家に求められる考え方を教わり、非常に勉強になりました」というロースクール。「24時間使える自習室があったり、自費では利用しづらい判例の検索システムが利用できたりしたのも助かりました」と、施設面でも満足だったそうです。ロースクールでの勉強については「仕事にくらべるとそれほど大変と思わなかった」そうですが、「やりすぎないで、うまく手を抜いたのも社会人経験があればこそでしょうか」とも言います。「法律を完璧に理解しようとするときりがありません。司法試験に合格するために必要なことから逆算してやるべきことを考え、無駄なく勉強した方が楽なのではないでしょうか」と後輩へアドバイスしてくれました。現在は司法修習生という身分で、裁判所、検察庁、弁護士会と、それぞれで現場の仕事について勉強中という神原さん。将来は「前職の経験を生かした弁護士を目指しています」とのこと。というのも「世の中に金融関係のトラブルというのは非常に多いです。金融の世界にいた経験があるので、そういうトラブルが少しでも少なくなるよう力を尽くしたい」という思いがあるから。弁護士過疎地に地元出身弁護士が増えるというだけでなく、今働いている人の希望にもなるような、鮮やかな転身です。

KEYWORD

四国ロースクール
(香川大学・愛媛大学
連合法務研究科)

香川大学と愛媛大学との連合方式によって、香川大学の幸町キャンパスに設置された法科大学院。1学年30名の少数定員により、手厚く丁寧な指導を実現している。法学部以外の学部や社会人からの入学も可能。